



学校安全ネットワーク情報

②監視性

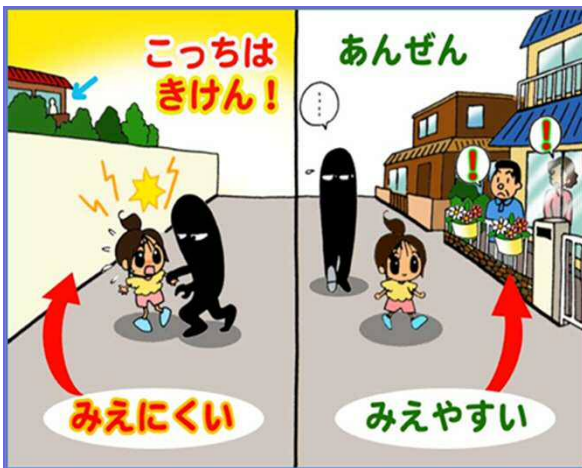
Vol.33 (3/4)

キーワードは、見えにくいと危険、見えやすいと安全。

犯罪者は、「誰からも見られていない」と考える場所では、「犯罪を起こしても見つかりにくい」と考えるため、犯罪が起こる可能性が高くなります。



監視性を高めて、見えやすくすることで安全度が高まります。



例えば、高い壁や木によって、家の窓から路上が見えにくくなっているところは危険度が高くなります。

また、人気のない農道など、見通しが良くても人の目が届かない場所は危険です。

駅前など、人通りが多い場所では、逆に周囲の人の目が分散されてしまい、誰かがどうにかするだろうと皆が思うため、誰も何もしないといった状況が起こり得ます。犯罪者の中には、その状況を利用して人通りの多いところで標的を見つけ、人気のないところまでついていって、犯行に及ぶ者もいます。



落書きや放置ごみは、「住民や通行人の地域への関心が低い」心理的に見えにくい場所のサインです。

反対に、防犯ボランティアによる見守り活動が行われていることは、大きな抑止力になります。防災行政無線による子どもの見守りの啓発放送も、「誰かが家から出てくるかもしれない」と、犯罪者に思わせる効果があるため、有効です。また、道路がきれいに掃除されていたり、民家の花壇が整えられていたりして、町の景観が美しく保たれていることも、犯罪者に、「地域の目が行き届いている(見つかりやすく、自分にとって都合が悪い)」と感じさせることができます。